

ソーシャルワーク論Ⅵ

担当教員 滝口 真

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- ①社会福祉士及び精神保健福祉士の相談援助の対象や利用者（精神障害者を含む）の権利擁護を理解できる。
- ②相談援助における専門職の概念、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義や内容を理解できる。
- ③相談援助における人と環境との相互作用に関する理論や様々な実践モデルを理解できる。
- ④相談援助の過程や知識（介護保険法、障害者自立支援法等のサービス計画を含む）と技術を理解できる。
- ⑤相談援助における事例分析の意義や方法について理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ジェネリック・ソーシャルワークとスペシフィック・ソーシャルワークについて説明できる。
2	人と環境の相互作用を理解するためにシステム理論について論じることができるようになる。
3	一般システム理論やサイネバテックス、自己組織性について説明できるようになる。
4	相談援助の対象の概念と範囲について説明できるようになる。
5	様々な実践モデルのうち、治療モデルのアプローチについて説明できるようになる。
6	生活モデルについてソーシャルワークの視点から論じることができるようになる。
7	ストレングスモデルについて説明できるようになる。
8	心理社会的アプローチについて説明できるようになる。
9	機能的アプローチについて説明できるようになる。
10	問題解決アプローチについて説明できるようになる。
11	課題中心アプローチについて説明できるようになる。
12	危機介入アプローチについて説明できるようになる。
13	行動変容アプローチについて説明できるようになる。
14	エンパワメントアプローチについて説明できるようになる。
15	フェミニストアプローチについて説明できるようになる。

【履修上の注意事項】

社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験受験資格を取得する者は、必ず履修しなければならない。授業前の課題に取り組むこと。授業後の学習内容を復習しておくこと。

【評価方法】

レポート提出20%、定期試験80%として評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』新講座⑧、中央法規出版。※前期と同じ厚生労働統計協会編・発行『国民の福祉の動向・厚生指標』増刊

【参考文献】

授業開講時に指示する。